新河岸川のあらまし（9）

天田　眞

赤野毛排水路

新宮戸橋と武蔵野線の中間の左岸には、主に下宗岡地域の雨水を排水する赤野毛排水機場があります。宗岡第二中学校前の旧堤防（新田場堤）にある篭嶌門樋（明治 28 年）をくぐり、下の宮氷川神社の脇から朝霞市に入り旧河道を流れてくる水で、大半が志木市の水ですが、排水機場は朝霞市が管理しています。

産業廃棄物の不法投棄現場

この辺りから武蔵野線にかけての左岸側は、昭和初期の改修工事までは最も蛇行を繰り返していた場所ですが、現在は廃棄物の中間処理場やアスファルトの再生工場などが集中しています。

そこに接した、武蔵野線橋梁手前の左岸は塀で囲まれ立ち入り禁止で、水際は鋼板で囲まれ、線路近くにはかまぼこ型の倉庫も建っています。ここは昭和の終わりごろから始まった一連の改修工事で、川幅拡張のために購入した用地に、化学物質で汚染された大量の産業廃棄物が見つかった場所です。

廃棄物埋設場所面積　2,450 ㎡

廃棄物を汚染していた主な有害物質：PCB、ダイオキシン類、鉛など重金属、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンなど揮発性有機化合物

1970 年頃 不法投棄推定時期
1987～ 用地買収開始
1988 掘削で廃棄物の埋設を発見
1990 鋼矢板（深さ 13m）を周囲に打込み
1994 洪水対策で鋼管矢板（深さ 21m）打込み
1994～ 廃棄物の掘削→ドラム缶封入→保管
1996～ 土壌中の有機溶剤の吸引処理開始
2014～ 保管廃棄物の無害化処理
2016　廃棄物処理完了（ドラム缶 1300 本）

この件について詳しくは、作業を担当している埼玉県朝霞県土整備事務所のホームページをご覧ください。

産業廃棄物不法投棄現場
（朝霞県土整備事務所ＨＰより）

産業廃棄物不法投棄現場
左後方は隣接のアスファルトコンクリート再生工場

※以下は、前回の冒頭で取り上げるべきでしたが、漏れてしまったので今回取り上げます。

志木・富士見境界の旧河道

流れが志木市に入ってすぐの右岸側、袋橋の上・下流に元は 1 本だった旧河道を利用した雨水排水路があります。袋橋の袋は川が袋状に蛇行していたことにより、先端に前河岸がありました。上流側の水路には小規模な調節池があり、下流側は柳瀬川左岸の水谷田んぼの排水がつながり、富士見市が管理する別所排水機場で新河岸川に放流しています。

下流側の排水路と別所排水機場